

4種審判員研修会

「一人制審判について」



2017. 04. 22・23

網走地区サッカー協会 審判委員会



試合開始前の打ち合わせ

【①全体確認】

- ・レギュレーションの確認
(試合時間、交代要員・役員の数、交代の数等)
- ・ボールの交換(マルチボールか否か等)
- ・担架、及び、担架要員の確認
- ・審判員負傷時の交代の確認
- ・交代ボード、フラッグ(4人制審判の場合)、ボール、
空気圧等の確認

*ピッチインスペクション・

マッチコーディネーションミーティング時間の確認

試合開始前の打ち合わせ



【②補助審判】

- ・ベンチコントロール(テクニカルエリアの行動等)
- ・選手交代、及び、交代時の交代ゾーンの出入り確認
- ・負傷者の対応
- ・アディショナルタイム
- ・ドクター等および担架入場の確認
- ・全般の記録(警告、退場を含む)
- ・不正行為やその他の出来事の確認、及び、報告
- ・用具の確認
- ・ボール交換・管理



8人制サッカー競技規則における ルールの基本的な考え方

- ①一人制審判を採用することにより、選手のフェアプレー精神を養う。
- ②審判員を信頼し、判定に対して不平不満を表さない。
- ③審判員の決定に従いつつ、ラインアウトについては選手から申告するフェアな姿勢を養う。
- ④指導者や保護者など、大人のフェアプレー精神も養う。

審判員の試合運営上の留意点 (共通理解)



- ① 1人制であることから、よく動き、よい位置取りを心掛けて説得力ある判定を目指す。
- ② オフサイドの判定については、主審の見解で明確な場合のみを罰し、原則的に「疑わしきは罰せず」の考え方を取る。
- ③ スローインについては、ファールスローなどの違反を探すのではなく、明らかなる場合のみを罰し、指導も行う。
- ④ フェアプレーの精神、良いマナーを養う目的から判定に対してや他の人に対しての言動にも注意を払い、指導をしていく。

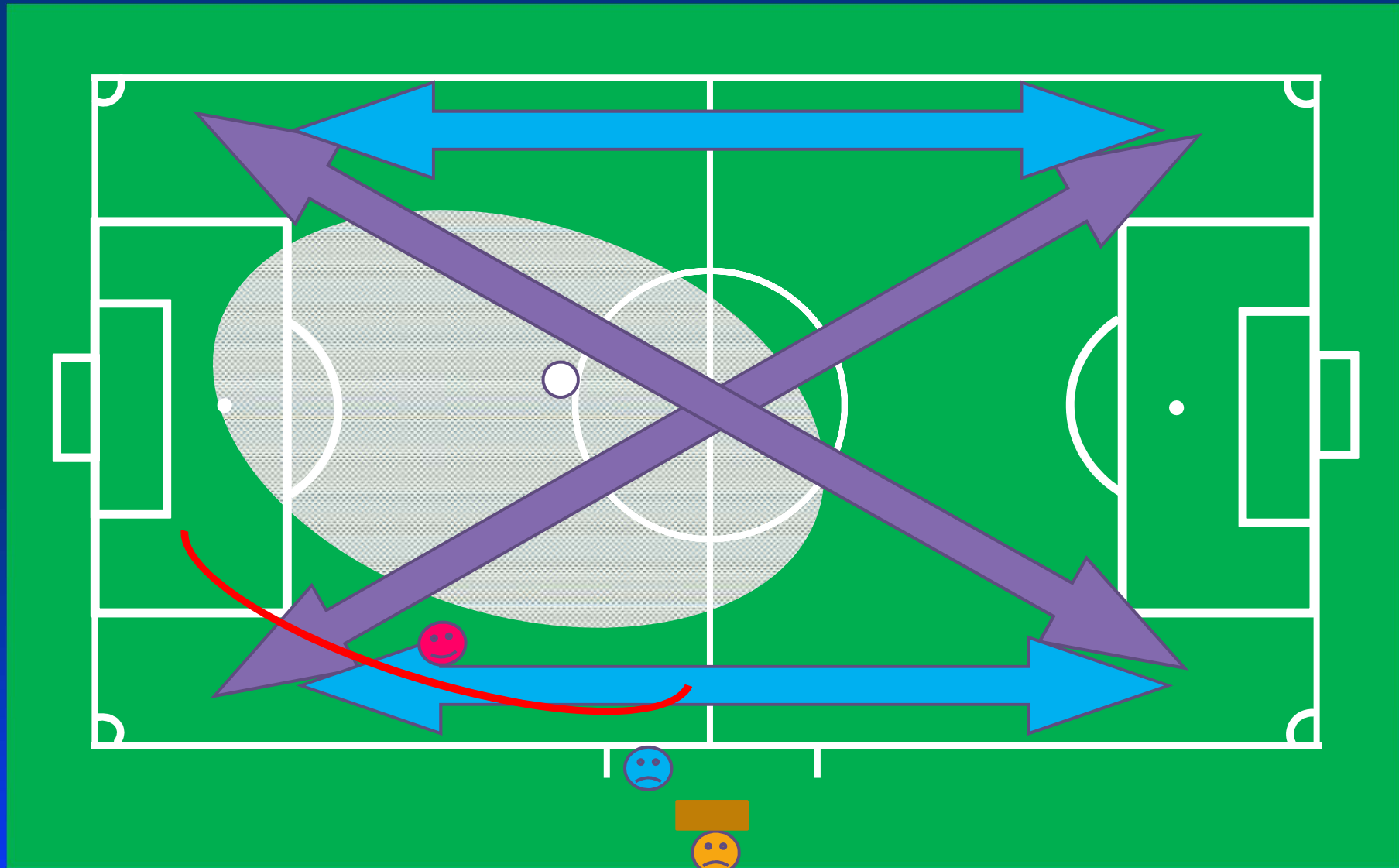


一人制審判においてより良く判定 する為に①

副審がいる場合、基本的に左対角線上を動き、副審と対面するようにしますが、一人制審判の場合は、できるだけ外から全体が見渡せるようなポジションを取り、ゴールに正対しない半身の体勢を取るほうが良い。

説得力のある判定の為にもよく動き、より良い位置(角度)・広い視野角を取ること。

主審の動き方、位置・角度





一人制審判においてより良く判定する為に②

ボールサイドに寄り過ぎてしまうと、大きく早いサイドチェンジやカウンターなどの次の展開についていけなくなる場合が多くなってしまいます。

その為、振り向いたらもう次の選手がオフサイドポジションでボールを持っている(オンサイドポジションからの飛び出しかどうかの判断が出来ない)ということも考えられる。

つまり、次の争点を把握した動き出しが大切となる。



一人制審判においてより良く判定する為に③

タッチラインを割るボールやスローインサイドの判定より、1点に絡むようなオフサイドの判定やゴールの判定、及び、ファールへの厳しさを優先に考えてポジションを取ると良い。



審判員として大切なことは。。。

- ① マネジメント力を高め円滑に毅然と試合を進行する。
- ② 主審の権威を保ち、信頼を得られるレフェリングに努める。
- ③ コモンセンス(=常識)を大切に。
- ④ 判定の精度の向上(見極める力)に努める。
 - ⇒ボールにプレーしようとしているか競技者の意図
 - ⇒チャレンジの方法
 - ⇒タイミング
 - ⇒スピード・強さ
 - ⇒接触の場所
 - ⇒影響度
 - ⇒etc.
- ⑤ 人間性の向上に努める。(自分で考え出す力、見出す力)
- ⑥ 向上心を常に持つ。(何かを目標にする、誰かを目標にする)
- ⑦ 気付きが大切(ある出来事や経験・体験から小さなことでも何かを得て、それを積み重ねていく)



END